

○ワークショップ 「消費者行動」

開催責任者 経営学部 石垣智徳
湯本祐司
南川和充

2019年3月7日

3月8日

南山大学J棟5階J51教室



ワークショップは以下のとおり、開催された。

◇研究目標

消費者行動研究の新しい研究テーマやその他関連研究に関する内容を議論する。

◇報告者および題目

3月7日（木）

1. 森貞 誠（大阪大学大学院経済学研究科）・ウィラワン ドニ ダハナ（大阪大学大学院経済学研究科）
「サービス企業における hybrid offering：製品採用タイミングの決定要因および顧客価値への影響」

2. 中田善啓（甲南大学名誉教授）
「デジタルイノベーションと所得格差」
3. 石垣智徳（南山大学経営学部）
「消費者行動ワークショップにおける研究の変遷と今後の展開について」

3月8日（金）

1. 中山雄司（大阪府立大学現代システム科学域マネジメント学類）・山田裕幸（大阪府立大学大学院経済学研究科）
「医師の新薬採用に影響する要因の分析：Split Population Duration Model の適用」
2. 辻本法子（桃山学院大学経営学部）
「観光土産の受け手のブランド認知に関する研究-中国人消費者を対象に-」

◇ワークショップの討論内容

本ワークショップでは消費者行動に関する広い分野のモデル分析他に関する研究報告ならびにディスカッションを行った。例えば、森貞・ウィラワンの報告では、ハイブリッド・オフアリングという新たな概念による商品採用タイミングについて考察している。顧客価値に寄与するいかなる要因（変数）があるのかという論点で進めている。

また、辻本氏の報告では、爆買い後の中国人消費者の消費行動について調査を行い「日本の観光土産を受け取った中国人のブランド認知」とは、何なのか、どのような商品が土産として認知され、再購買されているのかについて報告があった。明らかに、爆買いから次のフェーズに入っており、中国人の日本土産に対するネットショッピングの市場性について、意図どおりに機能するのか等の議論が行われた。